

6学年部会の様子

【6学年年部会で大切にしたいこと】

みとりからはじまる、対話を通した深い学び

視点②「子どもが問いを見だし、主体的に学び続ける
単元づくり」

○問題解決的な学習

問い、問題意識を子どもがもつ → 調べ学習 → 音声言語で広める・文字言語で深める。そのためには対話したくなる事実や教材が必要。

○子どもが問いをもつ工夫

例：1943年学徒出陣と1964年オリンピックの同じアングルで撮られた写真を比べることで、何があったのだろうか？という問いをもつことができる。また、オリンピックにかかった費用などの資料を効果的に使用することで、新たな問いにつなげることができる。

資料は、①どんな資料を②どんな目的で③どのように示すかが重要。

視点③「対話を通して学びの深まりを実感できる授業づくり」

○資料提示の目的と内容の吟味の重要性を確認した
→ 学年部長の提案より、東京オリンピックにかかった費用の内訳図を提示するタイミングについて考えた。初めから提示するのではなく、子どもの思考の流れに沿って出すことの重要性を確認した。このような具体的事例から、日頃の授業について交流する時間を通して、実践に生かせる部分を確認した。

○担当校長先生からは、授業では、聴いて(対話)多角的に広げる、書いて(振り返り)自分の考えを深めるというインプットについてお話をいただきました。